

## T・T（ティーム・ティーチング）について

特別支援学校（知的障害）では、小学校や中学校以上に児童生徒一人一人の実態に応じた指導が必要です。T・Tとは、児童生徒の個に応じたきめ細やかな指導を効果的に行う支援体制です。

T・Tの形式パターンの特徴と教員の役割分担（**T**：教員，**C**：児童生徒）

	<p><b>①全体支援型</b>  <b>T1</b>が全体の授業を進める。  <b>T2</b>は集団全体を見ながら、支援が必要な児童生徒を中心に支援する。また、必要に応じて学習課題と一緒に取り組んだり、活動の補助をしたりするなど、課題や場面に応じた支援を行うことができる。</p>
	<p><b>②個別支援型</b>  <b>T1</b>が全体の授業を進める。  <b>T2</b>は特定の児童生徒の支援を担当する。全体の授業のねらいに沿って、担当の児童生徒が同じ学習活動を行うだけでなく、特別な課題を設けることもできる。                  ※ 特別支援学級の児童生徒が、交流学級で学習を行う際は、このパターンで支援することが多い。</p>
	<p><b>③グループ支援型</b>  <b>T1</b>と<b>T2</b>は、各グループを担当し、小集団で学習を進める。同じ教室で行うと、お互いの内容や進度を確認しながら進めることができる。別教室などで行うと、学習や活動内容に幅を持たせることができる。                  例：制作活動で、教員が取り組む課題ごとに指導し、細やかに支援する。                  例：実態に応じて設定された小集団で、個別の課題をさせる。</p>
	<p><b>④演示型</b>  <b>T1</b>と<b>T2</b>が、交互に指導することで、児童生徒に分かりやすい演示を見せることができる。                  例：国語の授業で、<b>T1</b>と<b>T2</b>が児童生徒の前で寸劇を演じて見せる。</p>
	<p><b>⑤補助型</b>  <b>T2</b>が<b>T1</b>を補助して指導することで、児童生徒の興味・関心を引き出す演示等を見せることができる。                  例：音楽の授業で、<b>T2</b>がピアノ伴奏を弾く。</p>

T・Tを有効に進めるには、教員一人一人の持ち味を最大限に生かし、授業に対する共通理解を図った上で、各自の役割をしっかりと果たすことが大切です。

学年や学部での合同授業などは、教員や児童生徒の人数、指導内容等の違いでT・Tの形式パターンが変わります。授業を行う前には必ず「どのT・Tの形式パターン？」「誰がどの児童生徒を担当？」「どのような働き掛け？」など共通理解を図っておきましょう。

小学校や中学校の特別支援学級では、支援員が配置されていることがあります。支援員の業務内容についてもしっかりと把握し、適切な支援体制ができるようにしましょう。

